



法決定經

Dhammaniyāmasuttaṃ

法(dhamma 真理)を、つまり自然を、つまり世界を、どのように観るのか、どのような態度で対峙するのか、という仏教の基本に三相(無常、苦、無我)が提示されるのが初期仏教からテーラワーダ仏教に伝承されている特徴でもあり、それは ………

すべての現象世界は変化するのであり

すべての現象世界は元の状態を維持できないのであり

すべてのものごとに実体、本体といった固有のものはない。

というこの三相の原理を、タイサンガの学僧、P.A.Payuttō 師は著作『仏法』／2019年タイ語版で次の様に解説している。

無常性(aniccatā) — 定まることがなく、様変わりして永続することのない状態。

あるいは、生じたものが衰退し、消失してゆく状態。

苦性(dukkhatā) — 苦しみとなるあり方。

「私」の^{おも}意いに反する事柄が生じ、そして、それもまた消失してゆくことが抑圧となり、心が締めつけられる状態にあること。

その、変化を免れない状態として形成される要素的存在である現象世界は、ひとつの状態に留まり続けることはできない。

つまり、もともと欠陥があり、完全ではありえない状態にあるのであって、欲する者の望みに即応するものは無く、満足感を与えることもない。

その状態にあって、欲心や執著心により何かを求める者に生じる苦しみ。それが「苦」である。

無我性(anattatā) — 無我であること。

自己自身でないこと。

この様になれ、あの様になれと、統治者として強いて命じることのできる「本当の自己」というものがないこと。

(p.63)

— さらに詳細な解説が続く。

現象世界のあらゆる事柄は、様々な関係性に於いて相互依存的に成立する流動的なあり方で存在している。

その、絶え間なく生じたら滅して行くことの繰り返しに定かなものは何もない。

そのように、定まることなくものごとが関係し合う不安定で欠陥のある状況にある時、その関係に従うことになれば、当然のことながら抑圧や軋轢を感じることになる。

そして、すべてのものごとは、それが因縁によるものであらうとなかろうと、常に生じては滅する流動的状态にあるのだからその自然法則に従わざるを得ない。そこに、固有の自己自身となるものは何も無い。

物陰に隠れ、この様に、あの様にと命令し、自身の願い通りにしようと強制的に行わせる監督者のような者の存在はありえないのである。

(p.64)

法決定(dhammaniyāma)とは、ある特定の宗教や教祖が生み出したものではなく、創造神や超能力者とも無縁な、「自然界に定められた法則」のことである。

法決定経 / dhammaniyāmasuttam

Evam me sutam,
ekam samayaṃ Bhagavā,
sāvattthiyaṃ viharati, Jetavane Anāthapiṇḍikassa,
ārāme. Tatra kho Bhagavā bhikkhū
āmantesi, “Bhikkhavo” ti.
“Bhadante” ti te bhikkhū Bhagavato
paccassosum.
Bhagavā etadavoca.

“Uppādā vā, bhikkhave,
tathāgatānaṃ anuppādā vā tathāgatānaṃ,
ṭhitāva sā dhātu dhammaṭṭhitatā
dhammaniyāmatā.
Sabbe saṅkhārā aniccā(ti).
Taṃ tathāgato
abhisambujjhati abhisameti.
Abhisambujjhitvā abhisametvā

このように私は聞いた。

あるとき、世尊はサーヴァッティのジェータ林にある
アナータピンディカの園に滞在していた。

そこで世尊は「比丘達よ」と、比丘達に話しかけた。

かれら比丘達は「世尊よ」と、世尊に答えた。

世尊は次のように語った。

「比丘達よ、

如来が世に出現していても、出現していなくても、
この道理、すなわち、自然界の法則は確定していて、
そのあり方は定まりに於いて在る。

すなわち、すべての形成されたものは無常である。

如来はそれを覚知し、

道理に至り、

『すべての形成されたものは無常である』と告げ、

ācikkhati deseti
paññāpeti paṭṭhapeti
vivarati vibhajati uttānīkaroti
'sabbe saṅkhārā aniccā'ti.

Uppādā vā, bhikkhave,
tathāgatānaṃ anuppādā vā tathāgatānaṃ,
ṭhitāva sā dhātu dhammaṭṭhitatā
dhammaniyāmatā.

Sabbe saṅkhārā dukkhā(ti).

Taṃ tathāgato
abhisambujjhati abhisameti.

Abhisambujjhitvā abhisametvā

ācikkhati deseti
paññāpeti paṭṭhapeti
vivarati vibhajati uttānīkaroti
'sabbe saṅkhārā dukkhā'ti.

説き、告知し、
定め、公にし、
分別して、
その理解をうながすのである。

比丘達よ、
如来が世に出現していても、出現していなくても、
この道理、すなわち、自然界の法則は確定していて、
そのあり方は定まりに於いて在る。

すなわち、すべての形成されたものは苦である。

如来はそれを覚知し、

道理に至り、

『すべての形成されたものは苦である』と告げ、

説き、告知し、

定め、公にし、

分別して、

その理解をうながすのである。

Uppādā vā, bhikkhave,
tathāgatānaṃ anuppādā vā tathāgatānaṃ,
ñhitāva sā dhātu dhammaññhitatā
dhammaniyāmatā.
Sabbe dhammā anattā(ti).
Taṃ tathāgat
abhisambujjhati abhisameti.
Abhisambujjhitvā abhisametvā
ācikkhati deseti
paññāpeti paññāpeti
vivarati vibhajati uttānīkaroti
‘sabbe dhammā anattā’ti.

Idamavoca bhagavā, attamanā te
bhikkhu bhagavato bhāsitaṃ, abhinanduntī.

比丘達よ、
如来が世に出現していても、出現していなくても、
この道理、すなわち、自然界の法則は確定していて、
そのあり方は定まりに於いて在る。
すなわち、すべてのものごとは無我である。
如来はそれを覚知し、
道理に至り、
『すべてのものごとは無我である』と告げ、
説き、告知し、
定め、公にし、
分別して、
その理解をうながすのである。」

世尊は教説をこの様に説いた。
比丘達は世尊の所説に心から呼応し歓喜した。